

報道機関各社 様

担当：札幌市消費生活課調査指導係 TEL 728-2111 FAX 728-2112
---

## 平成 29 年度 年末年始における生活関連商品の需給動向・価格見通しについて

札幌市では、生活に密着した食品や石油製品等の生活関連商品の価格の動向を的確に把握し、市民に情報提供するため、関係業界団体や事業者の協力を得て、年末年始における生活関連商品の需給動向及び価格見通しに関する調査を行いましたので、その結果についてお知らせします。

## 記

## 1 協力を得た業界団体及び事業者

- |                 |                         |
|-----------------|-------------------------|
| (1) 丸果札幌青果(株)   | (5) (一社)北海道 LP ガス協会石狩支部 |
| (2) カネシメ高橋水産(株) | (6) ホクレン農業協同組合連合会       |
| (3) 札幌食肉卸業協会    | (7) 北海道製麺協同組合           |
| (4) 札幌地方石油業協同組合 | (8) 日糧製パン(株)            |

## 2 調査時期

平成 29 年 12 月上旬

## 3 概要

## (1) 青果物

調査品目の 18 品目中、やや安値は 4 品目、前年並みは 8 品目、やや高値・高値は 6 品目であった。

前年は、北海道を襲った度重なる台風の影響により、秋から冬にかけて野菜が高騰したため安値・やや安値の品目は無かったが、今年は 4 品目について前年よりやや安値となる見通し。ただし、みかん、レタスについては、10 月の台風の影響や全国的な天候不順により前年よりも高値を見込む。

## (2) 水産物

調査品目の 14 品目中、前年並みは 6 品目、やや高値・高値は 8 品目であった。

温暖化による海流の変化や台風、天候不順等の影響により極端な不漁となり、さけ、いくら、いか、たこを中心に前年よりも高値傾向。

## (3) 畜産物

調査品目の 7 品目中、やや安値は 1 品目、前年並みは 2 品目、やや高値・高値は 4 品目であった。

国産物は、頭数不足により豚肉を中心に高値傾向で推移。輸入物も、鶏肉を除き、他国(欧州諸国や中国)に買い負けていること等が影響し、前年よりも高値傾向となっている。

## (4) その他食料品

小麦粉(やや高値)を除き、7 品目が前年並みの見通し。

## (5) 石油製品

灯油を中心に前年よりも高値と見込むが、OPEC(石油輸出国機構)総会での協調減産の延長や中東の政情不安等の影響により先読みは難しい。供給量に関しては不足の懸念はない。

平成 29 年度 年末年始における生活関連商品の価格見通し 一覧表

	安値	やや安値	前年並み	やや高値	高値
青果物		きゅうり 里いも ばれいしょ ごぼう	生しいたけ はくさい みつば さつまいも にんじん たけのこ (缶詰) たまねぎ れんこん	だいこん きゃべつ ほうれん草 長ねぎ	みかん レタス
水産物			味付数の子 飯寿司 まぐろ 赤えび たらばがに 板かまぼこ	ほたて こんぶ	新巻さけ いくら いか はまち たこ スモークサーモン
畜産物		輸入鶏肉	国産牛肉 輸入豚肉	国産鶏肉 ロースハム	輸入牛肉 国産豚肉
その他 食料品			もち米 黒豆 鶏卵 パン 生そば そば粉 ラーメン	小麦粉	
石 油 製 品				プロパンガス レギュラーガソリン 軽油	灯油

※ 価格見通しの用語基準

- 前年並み = 前年同期比±5%未満
- やや安値・やや高値 = 前年同期比±5～15%未満
- 安値・高値 = 前年同期比±15%以上

平成29年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
青	きゅうり	やや安値	宮崎県産主力の入荷で作付は前年並み。ハウス物は促成タイプ主力の入荷。寒波の影響がなければ生育の大きな乱れはない見込み。出荷量の増減はあるものの、作柄は概ね順調。
	里いも		埼玉県、宮崎県、千葉県産中心の入荷。埼玉県産はやや小玉傾向。宮崎県、千葉県産も天候の影響を受け、平年から比べるとやや収量は落ち込みそう。入荷量は前年並みと予想する。
	ばれいしょ		後志、石狩、十勝地区中心の販売。貯蔵品の計画的な出荷、販売となる。6月の降雨と7月の高温で小玉傾向。
	ごぼう		十勝、後志地区中心の入荷。生育順調で入荷量は前年比増の見込み。
果物	生しいたけ	前年並み	胆振、石狩、根室地区中心に道内一円からの入荷。作付は前年並み。各産地大所は年末に向けて発生作業をするが、気温に大きく左右される作物なので、12月の気温次第で1週間前後ずれる可能性あり。入荷量は順調であれば前年並み。価格は他の野菜の価格にもよるが、前年並みの見込み。
	はくさい		茨城県産主力の入荷。作付は前年並み。生育良好であったものの、台風によるスレ等の痛みによる品質低下の懸念あり。
	みつば		水耕みつばの道内産は上川地区主力の入荷。府県産は愛知県産主力の入荷。作付は前年並み。入荷量は府県産は前年並み、道内産は前年比増の見込み。価格も前年並みの見通し。軟白みつばは、渡島地区主力の入荷。作付は減反だが作況は順調。前年並みの入荷を見込む。
	さつまいも		茨城県、徳島県産中心の入荷。各産地生育順調で平年並みの入荷予定。
	にんじん		千葉県産、熊本県産中心の入荷。千葉県産は、台風や長雨の影響で一部トンネルがはがれる等の被害はあったものの、10月下旬の段階では大きな被害はなく概ね順調。長雨による品質の低下が懸念される。熊本県産は、概ね順調な生育。

平成29年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
青 果	たけのこ (缶詰)	前年並み	中国産主力の入荷。入荷量は前年並みの見通し。 国産は福岡県、鹿児島県産中心の入荷。作況は各産地とも不作。
	たまねぎ		空知、石狩地区中心の販売。貯蔵品の計画的な出荷、販売となる。6月の降雨と7月の高温で小玉傾向。
	れんこん		茨城県産主力の入荷。作付は前年並み。 台風の影響もあり、不作の見通し。 価格は前年並みの見込み。
	だいこん	やや高値	千葉県、神奈川産中心の入荷。 千葉県の作付は平年並み。10月の台風の影響で品質低下などが懸念される。入荷量は例年よりやや減少。 神奈川県産の作付はやや増反。生育順調だったものの、10月の台風の影響で少なからず被害が出ているため、今後の回復次第だが入荷は例年よりやや減少を見込む。
	きゃべつ		道内産は上川地区主力の入荷。作付はやや減反。生育良好につき大玉傾向。潤沢な入荷の見込み。 府県産は愛知県、茨城県産中心の入荷。 ・愛知県産の作付はやや増反。生育期の好天により前進出荷となったが、10月の台風の影響が懸念される。 ・茨城県産の作付は増反。生育期の好天により前進出荷、大玉傾向。台風による冠水被害の懸念あり。
	ほうれん草		群馬県、埼玉県、茨城県産中心の入荷。作付は平年並み。 作況は台風の影響で大幅な減収の見込み。
長ねぎ	群馬県、埼玉県産中心の入荷。作付は前年並み。台風の影響があり下級品の発生が多くなる見込み。		
物	みかん	高値	和歌山県産主力、その他、佐賀県産・広島県産の入荷。 ・和歌山県産：作況は早生は前年比90%程度、中生・晩生は80%程度となる見込みで、少なかった前年を更に下回る。大玉傾向でM・Sは高値推移が見込まれる。 ・佐賀県産：作況は早生は前年の95%、普通・青島に関しては85%程度の見込み。青島は大玉L>2L中心になる。 ・広島県産：早生までは順調な入荷となるが「いしじ」以降前年より少ない入荷となる見込み。生育期の天候の影響により、晩生種は玉肥大も良く、L中心の入荷となる。
	レタス		静岡県、兵庫県産中心の入荷。作付は前年並み。作況は定植期の長雨のため遅れ気味。

平成29年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
水	味付数の子	前年並み	大西洋物は昨年より若干高値だが、ロシア産は水揚げ大幅増により安値傾向。
	飯寿司		魚種によつての上げ下げはあるが、平均すると前年並み。
	まぐろ		国産養殖はやや安値になりそうだが、その他に関しては前年並み。
	赤えび		アルゼンチン豊漁で安値安定。
	たらばがに		原料価格は昨年並み。ロシア産は、漁獲枠は増えているが為替レートが思わしくないため、価格を下げきれていない。
	板かまぼこ		従来品の需要に関しては下降傾向だが、健康趣向による減塩等の商品供給は増加。
産	ほたて	やや高値	台風等の影響により、年末までの水揚げ状況が不安定なため高値予想。
	こんぶ		昨年同様、全体的に不漁。羅臼、利尻、真昆布、がごめ特に、がごめはほとんどない状況。
物	新巻さけ	高値	道内秋鮭の不漁により、高値形成。
	いくら		国内物は秋鮭漁の不漁により大幅な高値。輸入物は原料単価高騰のため高値ではあるが、国内物との値差が大きいため大幅な需要増が見込まれる。
	いか		噴火湾の漁模様が芳しくなく、日本海（稚内）で漁場を形成（国産）。全体（輸入、国産）の水揚げが少ない分、高値で推移。
	はまち		3年程前の稚魚の生産量が少なく、成魚の生産が少ないため高値予想。
	たこ		輸入物が減少し、高値となっている。また、道外に生冷原料が流れ、道内の冷凍ボイル在庫が品薄状態のため高値の見通し。
	スモークサーモン		原材料となる秋鮭、トラウトサーモンの価格高騰により高値の見通し。

平成29年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
畜	輸入鶏肉	やや安値	今年の相場動向は、国内在庫が多く荷動きも悪いが、昨年と比べて国産鶏肉の販売価格が高いため、輸入鶏肉はやや安値となっている。年末に向けて入荷数量も多いため、年内は安値販売の予測となっている。
	国産牛肉	前年並み	品種によって頭数不足、頭数増があり、うまくバランスの取れた需給が進めば相場はそれほど乱高下することはないと思われる。年末の特需で相場が跳ね上がることはあるが、昨年並みに推移する見込み。
	輸入豚肉		安定的に輸入は出来ているが、バラ、ロインの価格は昨年並みで切らずに推移する見込み。国内在庫も過不足なく推移する見込みとなっており、特別に相場変動することは考えにくい予測となっている。
産	国産鶏肉	やや高値	今年はタイトな在庫状況が続いており、相場は高値維持の状況。年末に向けては例年同様、相場上昇が予想される。
	ロースハム		今年は原料高の影響もあり、加工品については昨年と比べて高値の状況になっている。年末に向けギフト商材も昨年と比べて高値が予想される。
物	輸入牛肉	高値	昨年より高値で推移しており、年末にかけてさらに価格は上がる見込み。特に冬場に売れるすき焼き用の肩ロース等が高値となる見込み。
	国産豚肉		国産豚肉の供給量不足や生産頭数が少ないため、例年になく高値であり、年末に向けても続いていく模様。供給量不足から輸入豚肉の使用へさらに進んでいく可能性がある。

平成29年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
その他 の 食 料 品	もち米	前年並み	大手需要者に対して、契約栽培による価格の安定化の取組みを行っていること等により、末端価格は前年並みが見込まれる。
	黒豆		旧穀の繰越在庫が少なく、需給環境はタイトな状況が続いている。平成29年産の作付面積は昨年より増加し、収量も平年並みは確保できる見通しであるものの、前年産の繰り越しを含めた全体の需給バランスにより、昨年に続き高値での推移となる見通し。
	鶏卵		ヒナ餌付羽数が前年を上回り増産が予想されるが、消費動向も堅調であるため、相場は前年並みで推移すると見込まれる。
	パン		小麦粉価格が上昇したほか、人件費、エネルギー価格の上昇もあり厳しい経営環境が続いているが、消費者の節約志向が根強く前年並みの見込み。
	生そば		輸入そばは昨年並み。道産そばは安定して採れ、価格も例年並み。
	そば粉		輸入そばは昨年並み。道産そばは安定して採れ、価格も例年並み。
	ラーメン		道産小麦は天候も良く安定して採れたが、輸入小麦は値上げとなる。年末は例年並みだが、来年はやや値上がりする見込み。
	小麦粉	やや高値	政府の小麦売渡価格が今年4月及び10月に引き上げられ、小麦粉価格は7月から前年を上回って推移している。1月からはさらに値上がりする見通し。

平成29年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
石	プロパンガス	やや高値	輸入価格・レートとも前年同期と比べ上昇し、OPEC減産継続もあり、やや高値の状況になりつつある。供給量は確保されている。
	レギュラーガソリン		クルド自治区の独立問題、ナイジェリア、リビアの不安定な生産、イスラム国の動向、11月30日開催のOPEC総会での協調減産の内容等の要因で価格については断言できないが、上昇傾向。需給については、今の状況で推移するのであれば問題ないと思われる。
製	軽油		クルド自治区の独立問題、ナイジェリア、リビアの不安定な生産、イスラム国の動向、11月30日開催のOPEC総会での協調減産の内容等の要因で価格については断言できないが、上昇傾向。需給については、今の状況で推移するのであれば問題ないと思われる。
品	灯油	高値	クルド自治区の独立問題、ナイジェリア、リビアの不安定な生産、イスラム国の動向、11月30日開催のOPEC総会での協調減産の内容等の要因で価格については断言できないが、上昇傾向。需給については、今の状況で推移するのであれば問題ないと思われる。